

令和4年度事業報告

1 概要

変異を続けながら拡大を続ける新型コロナウイルス感染症は、令和4年度においても大きな影響を及ぼし、年度末に向けて徐々に感染防止対策の制限が緩和されてはいるものの、国民一人ひとりが感じる思いはアフターコロナを意識した日常を戻しつつも、依然として不安を拭い去れない状況の中にあると推察されます。加えて、昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻を含む政情不安、円安の進行と物価の高騰など、数々の課題を抱え続けている1年でした。

令和4年度は、当センターにおける第3次中期計画の始まりの年であり、これまでの経過を踏まえ新たに進もうとする1年でもありましたが、その運営においても多大な影響を受ける結果となりました。

「自主・自立・協働・共助」の基本理念のもと働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を活かし、事業者の抱える人手不足や求人難の問題解決に貢献していくという大きな目標を掲げ、令和3年度に引き続いた活動の展開を企図していましたが、年間計画における各種講習等や一部イベントの中止を余儀なくされ、会員数においても全国的な傾向ではありますが、大幅に減少する結果となりました。

このような中であって、昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症の予防的措置によりやむなく開催を見送ってきました会員による手作りイベント「シルバーフェア」につきましては、今後の感染拡大にも配慮することを前提としたうえで、地元出身のプロ野球選手、川崎宗則氏をお迎えし、トークショーをメインとしたフェアとして、久しぶりに開催することができました。今回は、同じく見送っておりました統合10周年記念としても位置付け、次なる節目に向かって踏み出す一歩としたいとの思いを込めたものです。また、メモリアル演奏として、地元の重富中学校吹奏楽部の子供達による素晴らしい演奏で花を添えていただきました。

事業の根幹となる会員拡大については、全国シルバー人材センター事業協会（以下、「全シ協」という。）が進める「第2次会員100万人達成計画」を基本に、減少傾向にある会員の確保とその適切な就労支援を重要なキーワードと捉え、引き続き月2回の入会説明会及び出張説明会並びに女性限定の説明会、「プラチナ会員制度」の継続など、入会促進に向けた活動を積極的に行い、ハローワークの生涯現役支援窓口とも連携しながら会員数の確保・拡大に取り組みましたが、全シ協第2次会員100万人達成計画の令和4年度調整による当センター目標値736名には達することが出来ず、651人となりました。

契約金額につきましては、目標総額3億9千400万円に対し、4億100万円を達成できました。コロナ禍による需要の低迷や天候不良などの厳しい条件も重なる中

で、目標を上回る契約を確保できましたことは、偏に会員皆様のご協力の賜物であり、深く感謝とお礼を申し上げます。

今後も、新たな就業の場の確保に当たっては、地域の各種団体等へ出向いて本センターの活動紹介を行うなど、シルバー人材センターそのものの目的や理念について「知ってもらう努力」を継続的に続けていながら、新規受注の開拓や地域に密着した仕事の開拓にも努めてまいりますので、皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

独自事業としての龍門滝温泉「湯あがりしょっふ ほのぼ〜の」は、これからのセンターの拠点としても期待しながら、健康・福祉・観光等、それぞれの分野と連携した取り組みを目指しています。令和4年度は、始良市地域包括支援センターによる認知症予防教室の共催や新たに企画した市民によるほのぼのコンサート「ほのコン」など、市民の皆様とのふれあいの場としての活動に取り組みました。引き続き会員の手作り品や農産物、地元の特産品、また、障がい者就労支援事業施設の方々の食品や作品の販売などを行い、お客様がほっこりと訪れ、ほのぼのとゆっくり笑って帰れる空間づくりを目指していきます。

「緑のリサイクル」事業は、いわゆる「SDGs：持続可能な開発目標」の方向性も見据え、市の目指す今後の環境美化政策に合わせた自然環境の保全・CO₂削減に取り組むものですが、令和4年度においては、「県指定史跡 建昌城跡」の維持管理の中で、市の協力のもと作業時に発生する剪定枝葉をチップ化し、これを利用することによる防草効果や敷設資材としての活用について実証実験等に取り組みました。

当センターの今後の方向性として、「自然の物は自然のまま自然に還す」をテーマに、まずは剪定枝葉等の残さい物を資源化していくことによる公園緑地等の維持管理に取り組み、ごみの減量化、CO₂削減、循環型社会の構築への第1歩とならないか模索していきたいと考えています。

これからもお客様のニーズや社会の要請に応えられるセンターとして、また、会員の皆様が生きがいと誇りをもって活躍できるセンターを目指してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以下、令和4年度の主な事業について報告します。

1 数値目標

- (1) 会員数 全シ協第2次会員 100万人達成計画の令和4年度調整による
当センター目標値 736人
実績 651人（昨年度 677人）
- (2) 契約金額 目標 3億9千400万円 実績 4億100万円
(昨年度 3億9千万円)

(派遣事業込み)

(3) 就業率 目標 90% 実績 87.7% (昨年度 88.6%)

2 目指すセンター像

- (1) 会員が生き活きと活動し、笑顔と活気あふれるセンター
- (2) 地域社会に貢献し、市民から信頼されるセンター
- (3) 会員が相互に助け合い共に働き、共に遊ぶ楽しいセンター

3 基本方針

- (1) 高齢者がこれまでの経験や知識を活かしつつ、“生きがい”を持って仕事ができるよう会員の拡大、就業の場の確保を推進します。
- (2) 高齢者が健康で安全に「働く」、また、適正就業を通じて安心して「働く」ことのできる環境づくりを推進します。
- (3) 高齢者が地域の担い手となって、支え合いのまちづくりや活力ある地域社会づくりに貢献します。
- (4) 更なる業務体制の効率化や組織の活性化で事業運営基盤の強化を図ります。

4 具体的重点施策の主な取り組み状況

- (1) 高齢者がこれまでの経験や知識を活かしつつ、“生きがい”を持って仕事ができるような会員の拡大、就業の場の確保の推進

① 入会説明会の充実

定例の入会説明会、加治木、蒲生地区の出張入会説明会のほか、女性だけの説明会を始良地区で開催し入会促進を図りました。センター紹介DVDやパワーポイントによるわかりやすい説明に努め、また、コミュニティFMの放送など、広報誌・マスコミ等を通じた周知活動に努めました。

② 地域の仕事のニーズに適合した新規会員の確保

鹿児島県シルバー人材センター連合会（以下、鹿シ連という。）の高齢者活躍人材確保育成事業を活用した人手不足が危惧される分野に対応するための「子育て支援講習」を8月に計画し、就業機会の拡大に向けた知識や技術の向上と新規会員の確保に取り組みました。19名の参加があり、昨年度に引き続き関心の高さを実感しました。11月開催の「草刈り（機械刈）講習」は11名の参加希望があり、今後この分野での事業者開拓と就労支援活動に注力する必要があります。

③ 人材の確保等の推進

例年、定期的にハローワーク国分において生涯現役支援窓口と連携したチラシ配布を行い、就業機会の提供を行っておりましたが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止を余儀なくされました。

今後の動向を見ながら再開する予定です。また、会員の確保と人材活用については、会員就労支援データの整理を強化し、就労へのマッチング機能の強化に努めました。

④ 民間・公共の就業機会の開拓

発注者用のチラシの活用やコミュニティFM等により呼びかけを行い、就業ニーズの多様化に合わせた就業先の開拓に努め、公共においては、市長・副市長及び関係部長等を訪問し、受託事業の確保と新たな分野での事業展開に取り組みました。

⑤ 労働者派遣事業の推進

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響がある中、会員の皆様の就労意欲と努力により、昨年度の実績を上回る結果となりました。引き続き、就業機会の提供及び就業ニーズの把握に努め、就業先の開拓に取り組んでいきます。

⑥ 広報活動の強化

年2回発行の広報紙「シルバーあいら」や会報「動」だけでなく、コミュニティFM等のマスメディア及びホームページの充実、インスタグラムの発信等に取り組み、本センターの活動の周知に努めました。

(2) 高齢者が健康で安全に「働く」、また、適正就業を通じて安心して「働く」ことのできる環境づくりの推進

① 安全就業の徹底

安全委員による安全パトロールを実施し、就業現場での安全適正就業基準の遵守と就業中の事故防止に取り組みました。

例年実施している、安全意識を啓発するための「安全大会」と、機器の取扱い等による事故防止のための安全講習会は、コロナウイルス感染予防の観点から前回と同様実施できませんでした。

令和4年度は会員の安全に対する意識を高めるために、事故の大小に関わらず担当職員及び上司による事案発生直後の訪問・確認及び指導に努めました。また、ショートメールを利用した注意喚起や情報伝達のテスト配信を機会をとらえて発信し、会員の情報周知の充実に取り組みました。

② 技能講習・接遇研修の充実

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、今年度も中止を余儀なくされました。

③ 公平・適正就業の徹底

受託・派遣事業ともに業種や種別など就業内容の見極めを引き続き行い、事業所等を訪問し協議しながら、適正就業ガイドラインに沿った見直しに努めました。

不適正就業については、公平・適正就業違反取扱基準に基づき指導を行

いました。

④ 就業体制の適正化

仕事の内容、契約方法が適正なものになっているかどうか、自主点検や確認作業を行い、修正が必要なものについては、関係所管との協議を行い修正しました。適正就業ガイドラインに基づき「ワークシェアリング」を念頭に状況確認を行い、同一箇所に長期就業する会員に対しては適正化を図り、就業機会の均等化に努めました。

就業に関する苦情に対応するため、公平・適正就業委員会を開催し、再発防止に努めました。

(3) 高齢者が地域の担い手となった、支え合いのまちづくりや活力ある地域社会づくりの貢献

① 積極的なボランティア活動

地域社会への社会貢献の一環として、「県下一斉シルバーの日」に合わせ、市有施設及び史跡の清掃や草払い、剪定作業などボランティア活動を行いました。

② 「ワンコインサービス」

近隣に住む会員の皆様の協力により、サービスを必要とされる方々に「ワンコインサービス」の提供を行いました。

③ 女性会員の就業機会の推進

介護予防・日常生活支援総合事業を通して、女性会員の就業機会の推進を図りました。また、就業支援先としての拡大を視野に入れた「子育て支援講習」を連続して企画し、会員拡大とスキルアップを目指しました。

(4) 更なる業務体制の効率化や組織の活性化による事業運営基盤の強化

高齢者の健康で生きがいのある生活の実現に 대응するため、理事会、委員会及び事務局体制の充実、組織機能の強化を行いました。

① 事務局組織の整備

将来を見込んだ職員の後継者育成と会員・お客様との信頼関係構築を念頭に、事務処理内容の見直しや組織再編を行い、なお一層の情報共有と職員同士の力の結集及び横断的連携による組織体制の強化を目指しました。

② 理事会・委員会の充実

理事会及び委員会における率直な意見交換に努め、一層の充実を図りました。計画していた先進地研修会は、本年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大に配慮し中止しました。

③ 地域班及び職群班の活動の充実

会員相互の連帯感の醸成と作業の効率化及びクレームや就業中の事故防止を目的に、地域班・職群班を対象とした班長会議を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症対策への配慮から一部延期を余儀なくされました。

④ 請負制への対応

受注に当たっては、前年度に引き続き事前協議の充実及び見積書と契約書（請書）の取り交わしによる発注者とのトラブル防止に努めました。

⑤ 健全な財政運営の推進

センターの事業運営は、事業収益と国及び市からの補助金が主要財源となっています。令和4年度は新型コロナウイルスの影響があったにもかかわらず、対前年比においては、派遣事業は伸びを維持し、受託事業も目標を上回る結果となりました。これは会員の皆様の努力の成果が表れたものです。しかし、公共事業分野での発注減の傾向が少しずつ回復している中、民間の契約額は減少してきているという状況もあり、長期的な展望のもとに財政運営を考えていく必要があります。補助金の保持や公共事業の受託については、引き続き行政に対する働きかけを行い、またコスト削減と就業先の新規開拓や事業の効率化に努めていかなければなりません。

（ア）財政基盤の強化

センター運営に欠かせない市の補助金は例年通り確保され、一定の理解を得ましたが、公共事業受託については、減少傾向が続いています。自らのスキルアップも含めて、行政各部署に対し更なる受注の開拓に努めなければなりません。

（イ）独自事業の推進

腐葉土と薪は販売を通して、引き続き利用者の要望に応えました。

龍門滝温泉の「湯あがりしょっぶ ほのぼへの」については、農産加工品や農産物、就労支援施設の手作り品の販売をとおして、社会貢献と利用者へのサービスの提供を行い、始良市地域包括支援センターとの共催による「認知症予防教室」支援の取り組みも昨年度に引き続きサポートしました。

また、令和4年度は施設のロビーを利用した市民による手作りコンサートとして、「ほのぼのコンサート：通称ほのコン」を企画し、好評を得ました。

（ウ）資金積み立て

事務所の改築、移転を視野に入れた「事務所整備資金積立」については今回は対応できませんでした。

⑥ コンプライアンス（法令遵守）体制の充実

会員及び役職員が法令及びセンター規則等を守ることは、公益社団法人の義務です。本年度は、労働局及び労働基準監督署の調査が実施されましたが、特記するような指摘事項はありませんでした。今後も、法令遵守のより一層の徹底に努めてまいります。

最後に、例年ご支援をいただいております関係機関及び地域の皆様に対

し、衷心より感謝を申し上げ事業報告とします。